

# うたごえ新聞



# ぼくの歌きいてよ

名古屋市熱田区。零細 中小企業がひしめく一角で障害者の働く熱田作業所の仲間が、「ぼくたちを支えてくれている地域の仲間と、ぼくたちががんばっている姿を見てほしい」とオリジナル合唱構成「ぼくの歌きいてよ」をメ

インに、「ホカホカ・コンサート」を開きます。  
各紙、TVでも報道  
五月十七日(日)午後二時から、地元熱田区役所ホールで開かれるこのコンサートは中京テレビ、CBC(写  
真)や朝日、毎日、中日、赤旗など新聞でも報道され、目標五百人に対して二週間のうちに三百枚を超えるチケットが売れ、カンパ、賛助金は十八万円。愛知県、名古屋市などから後援を受け、社会的にも大きく注目されています。

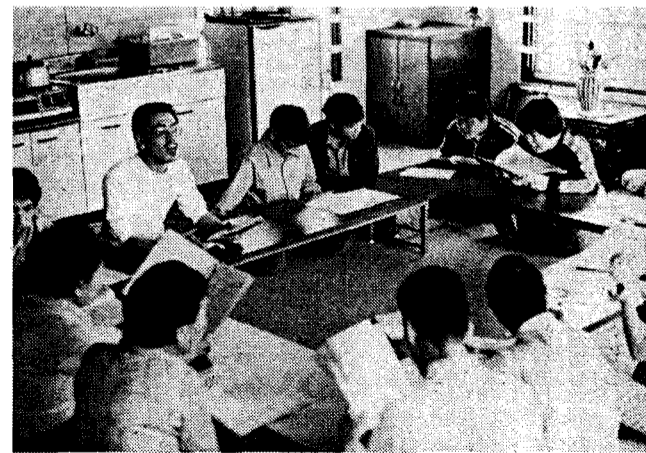
## \*国際障害者年と

## うたごえ運動

5月17日

## 愛知・熱田作業所「ホカホカ・コンサート」障害者と住民が手作りで

合唱構成の作詞は、熱田作業所の所員(障害者)、そのお母さんや石黒真知子さん(愛知詩人会議)、作曲は林学さん(作曲家)が全曲を手がけています。  
雨、雨ふるな...  
障害児を持つ母親三人が、自宅の四畳半に職場を設けた



▲篠原さん(左側、メガネの人)の音頭でみんな懸命

▲マスコミにもとりあげられ、初のコンサートを待つ熱田作業所のみなさん

の一九七七年四月でした。十一年も施設に預けていたわが子が、面会の日が近づくと、シートで雪ダルマのようになっている坊主を作って待ち受けていました。  
雨ふるな、雨ふるな あした天気になれば 母さん 早く来るように  
「( )である坊主のうた」。



CBCで放送された熱田作業所の様子

の介助をつとめるようになって、といっています。  
「何か燃えるものがほしかった僕と、話し相手を求めていたタケヤンの気持ちが一致した」と、篠原さんは親に毎月五千円の協力をもらい、バザー、廃品回収をやっても早へるまいに  
「( )である坊主のうた」。

「名月赤城山」も  
障害者運動を広げること  
と、将来に認可施設を自営する千五百万円の自己資金作りの足がかりにしよう、というコンサート。お母さんたちもチケットの売りさばきに必死です。そして、子どもたちと一緒にうたう中、今まで、ついつい世間の陰にかくれていたお母さんたちの目が輝いてきた、といっています。

水ごりをやっていた、という倉橋ツネさんは、コンサートでは踊り「名月赤城山」を  
名古屋青年合唱団員でもある篠原さんは、「ぼくのひころき」「青春」「たんぽぽ」などを熱田作業所に持ちこみました。大学の学生たちが来てくれる日曜学校でも、折り紙や足し算、引き算などに加え、レクリエーションや歌も楽しい、作業所の仲間は、「ホ

カホカ・コンサート」には、すぐ乗り気になりました。  
「名月赤城山」も  
障害者運動を広げること  
と、将来に認可施設を自営する千五百万円の自己資金作りの足がかりにしよう、というコンサート。お母さんたちもチケットの売りさばきに必死です。そして、子どもたちと一緒にうたう中、今まで、ついつい世間の陰にかくれていたお母さんたちの目が輝いてきた、といっています。

カホカ・コンサート」には、すぐ乗り気になりました。  
「名月赤城山」も  
障害者運動を広げること  
と、将来に認可施設を自営する千五百万円の自己資金作りの足がかりにしよう、というコンサート。お母さんたちもチケットの売りさばきに必死です。そして、子どもたちと一緒にうたう中、今まで、ついつい世間の陰にかくれていたお母さんたちの目が輝いてきた、といっています。

カホカ・コンサート」には、すぐ乗り気になりました。  
「名月赤城山」も  
障害者運動を広げること  
と、将来に認可施設を自営する千五百万円の自己資金作りの足がかりにしよう、というコンサート。お母さんたちもチケットの売りさばきに必死です。そして、子どもたちと一緒にうたう中、今まで、ついつい世間の陰にかくれていたお母さんたちの目が輝いてきた、といっています。

カホカ・コンサート」には、すぐ乗り気になりました。  
「名月赤城山」も  
障害者運動を広げること  
と、将来に認可施設を自営する千五百万円の自己資金作りの足がかりにしよう、というコンサート。お母さんたちもチケットの売りさばきに必死です。そして、子どもたちと一緒にうたう中、今まで、ついつい世間の陰にかくれていたお母さんたちの目が輝いてきた、といっています。

## 今号特集

# 両足切断した青年とうたごえの出会い、一人の障害者祭典

4.5面

# 障害者歌の詩人選決定

3面

名古屋市金山駅近くにビジネス・ホテルがある。畳一五畳ほどのベッドルームだが、ラジオ、テレビ、ステレオが完備し、宇宙船ベッドにしているよう。  
名古屋イン・カブセルがホテルの名である。  
私たちが地方に出張する場合、ほとんどはサークル員宅に投宿させていた。密着取材にはその方がいい」という旨だが、ほんとうは金がない、が唯一の理由。  
三、四日に一度、それでも気を使わない宿に泊まらないうと体がもたない。  
名古屋イン・カブセルはサウナ付、オールナイトと条件がいい上、三千元を切る安さ。  
こんな具合の出取材だから、最大の経費は何といつても交通費だ。今や遠方なら飛行機の方が安上がりだ。  
またもや国鉄が値上がりし、その名も「酷(こく)鉄」に改名した方がいい。  
国鉄労働者は、ローカル線廃止、運賃値上げを反対して、自らの要求と国民の要求を合致させている。  
来週(5月16、17日)から始まる「国鉄うたごえ祭典」も要求を音楽にして。

この祭典のメインはローカル線問題を創作した構成物。子どもから老人まで廃止運動は広がる。  
地方のうたごえが地元の問題として扱ければ一大話題になること確実だ(末)